

## V 子どもが地域で育つ

### (1) 魅力ある居場所の拡充

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5101	障害児放課後日中一時支援事業	障害福祉課	障害をもつ子どもの家族の就労を支援するとともに、日常的に障害をもつ子どもを介護している家族の休息を目的とし、子どもの放課後の活動の場を確保し、社会に適応するための日常的な訓練を行う。	Believeびりいふ 放課後活動 延べ3026人 学校長期休業中活動 延べ 515人	3（ある程度達成した）	スマイルプラザ中央町において、小学4年生から高校3年生までの障害児の放課後及び学校長期休業中の居場所を確保し、社会への順応性や自立心を育てるために、小グループを中心とした活動を行った。
5102	児童館整備	子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>未整備住区への児童館の整備を進める。（未整備住区…菅刈・田道・鷹番・月光原・大岡山東・碑・中根・大岡山西・東根）</li> <li>出張児童館、出前講座等の児童館サービス提供の充実</li> <li>配置基準</li> <li>原則として住区ごとに1か所整備する。</li> <li>標準規模 （複合）建物660㎡ （単独）建物800㎡ 土地500㎡</li> <li>機能 地域子育てセンター、プレイルーム兼集会室、遊戯室兼聴覚室、図工室、図書室、育成室（学童保育室）、子育てボランティア活動拠点</li> </ul>	移動児童館・出張児童館の実施 【西部地区】 緑が丘児童館 実施回数 132回 参加延べ人数 4660人 八雲児童館 実施回数 7回 参加延べ人数 502人 【南部地区】 原町児童館 実施回数 8回 参加延べ人数 619人 向原児童館 実施回数 18回 参加人数 509人 【北部地区】 東山児童館 実施回数 11回 参加人数 878人 【東部地区】 区民センター児童館 実施回数 4回 参加人数 28人 合計実施回数 180回 延べ参加人数 7196人	3（ある程度達成した）	未整備住区への児童館の整備を進める。（未整備住区…菅刈・田道・鷹番・月光原・大岡山東・碑・中根・大岡山西・東根）同時に「移動児童館」「出張児童館」「出前講座」などを実施し、未整備住区へ児童館事業を提供してきた。とくに未整備地域の中でも利用者からの要望が多い、西部地区については、平成22年度と平成25年度の事業実績を比較すると、「移動児童館」「出張児童館」の回数・参加延べ人数ともに3倍余（44回から129回、1791人から4515人）と大幅に伸びてきている。東根、宮前、中根、大岡山西住区及び宮前地域では、乳幼児活動、工作活動を中心にすべての地域で行ない回数も増やしてきた。移動児童館のノウハウを活かし、居場所として遊べる空間を用意してきた。また、近隣保育園やこども園へ出張工作を行ない子どもを通して児童館の楽しさを周知し、親子で土・日曜日への利用へ繋げていくことができた。乳幼児活動の需要は高く、東根住区では毎週木曜日に親子の居場所として活動が定着してきている。小学生は、学校が早く終わる水曜日を中心に行なってきたが、居場所の拡充から水曜日以外にも実施できるか検討していきたい。現在、区有施設の見直しが進められている中で未整備地域については、区有施設の有効活用を積極的に取り入れられるよう働きかけていきたい。同様に南部地区でも小中学校PTAなどから、子どもが安心して過ごせる居場所作りを踏まえ、「出張児童館」や「懇談会」などの実施に際して、連携協力が図られてきた。今後の課題として、常駐できる職員の配置があれば、児童館未整備地域の子どもの居場所としてサテライト児童館の運営（開設）ができるのではないかと考える。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5103	子どもの発想を活かした児童館運営	子育て支援課	児童館に対する要望、不満、疑問など、子どもが自分たちの想いを発信しやすい環境をつくる。また、子どもが主体となって企画する事業の実施を進める。	児童館事業の中で小学生や中高生を対象とした事業の実施に際して、「子ども会議」を開催し、子どもたちの意見要望を取り入れている。開催は、年度内の前・後期に1回程度、また四半期に1回程度の実施が定着化している。	4（達成した）	児童館事業では、事業の大小に関わりなく、子どもたちの声（意見要望）を踏まえた事業の実施が前提にある。それぞれの事業の中で必要に応じて、子どもたちから意見を引き出しやすい環境づくりに配慮した事業運営を行っている。また、「子ども会議」と称して、定期的に年間の節目となる時期に子どもたちが集い、自らの意見を発信したり、事業の企画立案をしたり、事業の実施に際して子どもたちの意見が不可欠なものになってきている。
5104	ランドセル来館の充実	子育て支援課	下校後、ランドセルをもったまま直接来館できる「ランドセル来館」を充実していく。（事前登録制）	ランドセル来館14館一日 合計141人利用 1館一日 10人利用 登録数 885人～1156人 内16人（障害児）	3（ある程度達成した）	ニーズ量の調査による放課後健全育成事業における需要量見込みは、低学年1941人高学年922人である。25年度の学童保育クラブの在籍児童数1293人とランドセル来館登録児童数1156人合計2449人であることから、見込み量については概ね達成したといえる。
5105	児童館における中高生の居場所の拡大	子育て支援課	児童館において、中高生向けの利用時間やスペースを確保し、利用の促進を図る。	「ティーンズ・フェスタ・イン・めぐろ2013」を実施。中高生の意見要望を捉え主体的な参加・参画を促すために、地域・協力団体・行政機関と連携し世代を超えた交流を図り中高生の社会参加を図った。また、区内公私立中高生が参加しやすい事業とするため、学校の行事日程等を調べ日程の設定を行った。 ①東日本大震災で被災した生徒の進学を支援するため若草リボン基金への募金活動やリボンバッジの販売を実施した。 ②区内公私立中学校・高校を通じた参加・参画の取り組みを実施した。 ③地域育成団体や民間企業と協力し未成年者の飲酒防止啓発活動等を実施した。 参加人数194人（中高生スタッフ・地域協力団体等）来場者人数503人	3（ある程度達成した）	「ティーンズ・フェスタ・イン・めぐろ」を22年度から25年度まで4回実施。中高生の意見要望を捉え主体的な参加・参画を促すために、地域・協力団体・行政機関と連携し世代を超えた交流を図り中高生の社会参加を図った。実施場所としては、スマイルプラザ中央町や目黒中央中学校を会場とし2回実施したが、より中高生にとって魅力ある事業とするため文化的発表やスポーツができる施設機能を存分に活用し目黒区民センター体育館・ホールに会場を変更し継続的に実施した。実施内容として文化的イベント（音楽・演劇等）・スポーツイベント（バスケットボール大会、ミニバレー大会等）・ゲーム大会・障害就労支援施設による販売・東日本大震災に伴う復興支援への活動・子ども条例の啓発活動等を中高生スタッフが主体的に取り組み実施した。
5106	障害をもつ子どもへの居場所の提供	子育て支援課	児童館において、障害をもつ子どもも参加しやすい事業として、「あそびのつどい」を実施する。年間1回児童館を利用する障害をもつ子どもの保護者と懇談会を実施し、意見要望など情報交換を行い居場所の充実を図る。	「あそびのつどい」を実施 児童館 14館 実施回数 115回 述べ参加人数 2991人 「保護者懇談会」を1回実施 9月21日に開催 保護者16人・区内事業所4人 出席 児童館・学童クラブ職員と情報交換・要望などについて交流した。 25年7月から目黒区障害者自立支援協議会専門部会児童部会（仮称）へ児童館長・職員が毎月1回参加し意見交換・情報共有を図った。	4（達成した）	児童館障害児対応事業「あそびのつどい」は、実践検討を実施し、障害に対応した内容の検討や障害児理解・充実を図るための取り組みを行なっている。また、小学生だけでなく、中高生利用の活動場所として、平成23年度からは中学校支援教諭との懇談も始めた。平成24年3月、保護者の要望にこたえるため「困ったときの相談窓口」相談機関一覧表を作成、現在も随時改正発行している。平成26年3月、目黒区障害者自立支援協議会専門部会として正式に児童部会が発足し、児童館長・職員が毎月1回参加し意見交換・情報共有を図っている。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5107	特色ある児童館の検討	子育て支援課	これまで小学生中心に展開されることが多かった事業及び館運営について、障害をもつ子どもを含む乳幼児から18歳未満の幅広い利用者を対象とした魅力ある児童館を目指しバリアフリー化など施設改善等の検討を行う。特に、中学生・乳幼児・障害児対応の推進を目指す。	25年度、中学生3,359人、高校生7,690人利用 「スマイルカフェ」中学生相互の交流、自己実現の場として毎週土曜日の夕刻に実施 年間56回 延べ745人参加 「音楽スタジオ利用登録者（バンド）」バンド登録43組（男70人・女39人）個人登録16人（男8人・女8人） 「チャリティライブ：MEGROCK」バンド登録者による自主企画、第6回を8月24日実施 来場者51人 募金4833円、第7回を3月23日実施 来場者95人 募金7204円 合計12037円を目黒区を通して気仙沼へ送金した。	4（達成した）	区内にある児童館の中で中高生の利用状況や利用実績を比較すれば、中央町児童館が中学生にとって魅力ある児童館であることは間違えない。今後も区内における中高生活動の実践や中高生の居場所として担う役割は大きく、中高生のニーズに適切に応えられる児童館運営と活動環境の整備が求められている。
5108	花とみどりの学習館の子ども向け事業の実施	みどりと公園課	子どもも対象にした園芸教室等を実施する。	58回 延べ参加者1,104人 内子ども参加者503人	3（ある程度達成した）	事業内容に大きな変更はないが、毎年安定した参加児童を集めてきた。今後も体験学習の場としての機能を充実させていく。
5109	放課後フリークラブ事業の推進	教職員・教育活動課	放課後や学校休業日に学校施設等において、子どもの安全安心な居場所を確保するとともに、地域の人材を活用して子どもに様々な体験の機会を提供することにより、子どもの自主性、創造性、社会性を養う。 「ランドセルひろば」事業：区立小学校の校庭等において放課後の子どもの安全安心な遊び場を提供する。 「子ども教室」事業：区立小学校の施設等において、学校の休業日等に子どもが地域との交流、文化活動、スポーツ活動等の体験ができる機会を提供する。	1 「ランドセルひろば」事業 【実施回数】小学校22校 【延実施日数】3,503日 【延参加児童数】188,582人 2 「子ども教室」事業 【実施団体】9団体（新規2団体） 【実施回数】877回 【延参加人数】14,929人	3（ある程度達成した）	ランドセルひろばでは、事故防止や緊急時対応の円滑化などのため、管理運営員に対する研修等の充実を図ってきたが、今後とも引き続き管理員のレベルアップに努める必要がある。  子ども教室では、26年度から実施団体が11団体に拡大し、さらに年度途中から1団体追加予定である。今後も、さらなる実施団体の拡大を目指す。
5110	学校開放	スポーツ振興課	学校ひろば、プール開放等を今後とも継続し、子どもの居場所を確保する。	①学校ひろば 24校 延べ人1,966回 ②プール開放 7校 延べ134回	3（ある程度達成した）	子ども達や地域の安全な遊び場として、小・中学校の校庭（学校ひろば）と小学校プール（プール開放）を実施してきた。

## (2) 子育てネットワークづくり

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5201	親子会・子育てグループの育成	碑文谷保健センター	保健センター等で行われた事業の参加者が、事業終了後に結成した自主グループ（ハローベビークラスOG会、育児学級OG会、親子会など）の活動を支援する。	自主的活動が軌道にのったため24年度で終了した。	4（達成した）	平成22年度は7回・233人、平成23年度は10回・180人、平成24年度は7回・178人の参加があった。 自主的活動が軌道にのったため、平成24年度で終了した。
5202	ふたご・みつごの子育て懇談会	碑文谷保健センター	就学前の多胎児とその家族を対象に、活動を行っているグループへの支援を行う。	6回 160人	3（ある程度達成した）	参加者数は年により増減あり。産前産後に参加でき、情報交換や交流ができる貴重な場となっている。
5203	母親の会	保健予防課・碑文谷保健センター	母親同士のグループワークにより育児不安の軽減を図る。	24回 80人	3（ある程度達成した）	参加者の母は様々な背景があり、問題が多様化かつ重度化する傾向にある。会に参加し母子分離の方法で母が交流することによって、母の持つ力が増強され母子関係の改善に役立っている。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5204	フレッシュママの集い	保健予防課・碑文谷保健センター	生後1～3か月までの児と母が集まり、交流を深め、情報交換をすることにより、育児不安の軽減を図る。	24回 1204人	4（達成した）	母同士の交流が地域での仲間作りに発展し、子育てにおける問題解決につながっている。
5205	子育てふれあいひろば	子育て支援課	0～3歳の子育て家庭を中心につどいの広場を提供しながら、子育て相談や子育てサークル等の支援を行うことにより、子育て家庭の交流の推進を図る。	子育て相談事業、子育てに関する各種講座の開催、児童館と連携した乳幼児活動、目黒区の子育て情報の発信と収集を実施した。 また、サービスの拡充を図るため、児童館と連携した一体的な運営や開室時間の見直しを実施した。 年間利用者数16204人 行事・講座参加者数1733人	3（ある程度達成した）	0～3歳の子育て家庭を中心にして子育て相談や各種行事、講座を実施し地域の方々・保護者・乳幼児が交流できる場や機会を実施した。また、地域に根ざした子育て支援の拠点としての役割を果たすために児童館と一体的に事業を展開する中で、独自に利用者アンケートを実施するなど利用者のニーズ・意見・要望を把握し事業内容や開室時間等課題を整理し子育て支援策の向上に努めた。
5205	子育てふれあいひろば	保育課	0～3歳の子育て家庭を中心につどいの広場を提供しながら、子育て相談や子育てサークル等の支援を行うことにより、子育て家庭の交流の推進を図る。	区立児童館1館 区立保育園6園 私立保育園1園に設置	3（ある程度達成した）	子育て家庭を中心につどいの広場を提供することにより、子育て相談や子育てサークル等の支援をしてきた。開設から年数が経過したことや各ひろばの環境、行事の充実を意識してきたことで参加人数は年々増加している。
5206	「乳幼児クラブ」・「乳幼児のつどい」	子育て支援課	児童館や学童保育クラブ（単独設置）において、幼児とその保護者を対象に、子どもや親同士が仲良く交流を深めることのできる場として、自主的なグループ活動への支援、専門家や職員による子育て講座、乳幼児のつどい等を実施する。	●児童館14館 「乳幼児クラブ」 登録数 平均1443組 延べ参加人数（母子）60,555人 「乳幼児のつどい」 実施回数 延べ290回 述べ参加人数（母子）8,110人 「ベビー活動」 実施回数 延べ206回 述べ参加人数（母子）4,430人 ●単独学童クラブ7か所 「幼児のつどい」 実施回数 延べ216回 述べ参加人数（母子）3,179人 「ベビー活動」 実施回数 延べ44回 述べ参加人数（母子）336人	4（達成した）	従来、児童館の乳幼児事業の対象は、乳児から幼稚園入園前の幼児（0・1・2・3歳）を中心に事業を実施してきた。近年、就学前児童（4・5歳）を対象にした事業や居場所作りの要望が多くなってきている。就学を視野にした活動が求められ、とくに1年生プロブレムなど様々な課題を抱える子どもとその保護者には、地域の関係機関や学校などと連携した活動支援求められています。
5207	子育て自主グループへの支援	子ども家庭課	子育て自主グループ登録団体への活動スペース提供・一時保育の場の提供	【活動スペース提供】 自主グループ 17回 一時保育 30回	3（ある程度達成した）	育て自主グループ登録団体への活動スペース提供・一時保育の場の提供をした。
5208	子育て自主グループのネットワーク支援	子ども家庭課	子育て情報ポータルサイト「めぐろ子ども・子育てネット」で子育て自主グループの団体紹介や情報提供を行うとともに、自主グループ活動の普及や交流を図る子育て自主グループ懇談会の開催等により、ネットワークづくりを支援する。	子育て情報ポータルサイト「めぐろ子ども・子育てネット」で子育て自主グループの団体紹介や情報提供を行った。	3（ある程度達成した）	子育て情報ポータルサイト「めぐろ子ども・子育てネット」で子育て自主グループの団体紹介や情報提供を行った。また、子育て交流ひろばを開催しネットワークづくりを支援した。
5209	区立保育園開放	保育課	保育園在園児以外の親子を対象に保育園の施設開放や、保育園が行う行事等への参加を促し、子育て家庭の交流を図る。 （施設開放） 園庭・プール・園舎内空きスペース（行事など） 身体測定、納涼会、運動会など	園庭開放 20園実施 プール開放 3園実施 身体計測 22園実施 その他各園で行われた行事（お楽しみ会、納涼会、焼き芋会等）開放22園実施	4（達成した）	保育園在園児以外の親子を対象に保育園の施設開放や、保育園が行う行事等への参加を促すための宣伝の工夫（垂れ幕の設置、ピラの掲示や配布）により、参加者が増加している。参加を楽しみにしているリピーターも増えた。
5210	区立幼稚園の園庭・保育室開放	学校運営課	未就園児を園庭や保育室を開放し、子どもの遊びを通して交流や保護者の交流を図る場や機会を提供する。	未就園児実施回数 ひがしやま 20回 からすみ 63回 ふどう 36回 げっこうはら 9回 みどりがおか 60回	4（達成した）	認定こども園への移行園については、必須事業である子育て支援事業を充実していく。

(3) 子どもの育ちを支える地域活動の推進

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5301	児童館でのボランティアの育成と活用	子育て支援課	青少年ボランティアを育成及び活用し、中高生等が幼い子どもや障害をもつ子どもとふれあう機会を提供する。 また、地域のおとながボランティアとして館の行事や運営に参加し、共に地域の子どもの育てる。	児童館ボランティア登録数 100人 活動参加延べ人数 2576人 活動事例 乳幼児事業では、地域で読み聞かせ活動をされている個人・団体が登録し通年活動をした。障害児対応事業の「あそびのつどい」では、活動の準備や企画、参加児童と一緒に遊ぶなどをしてきた。調理活動の指導、クラブ活動（太鼓・編み物・フラダンス・Nゲージなど）の指導	4（達成した）	児童館ボランティアの4つの効果として、①多様な価値観をもった方々が児童館活動へ参加されることで、事業の拡充、深化に繋がった。②ボランティアは、地域の声を児童館に届け、地域とのコミュニケーションを豊かにしてくれた。③子どもたちが様々な人と出会え、世代を超えた交流体験ができた。④ボランティア自身の自己実現の場として、生きる活力や豊かな人生を送る一助になった。
5302	ふらっとネットワーク	子育て支援課	児童館活動を地域で支えていく関係づくりを目指して、住区住民会議、青少年委員、主任児童委員など、子どもや地域の人々と児童館運営について情報交換を行う。児童館運営会議（仮称）から、名称を「ふらっとネットワーク」と改める。	各児童館で年間2～6回程度実施 実施に際しては、乳幼児保護者・小学生保護者・ランドセル利用保護者・地域・児童館ボランティアなど、利用対象者別に実施し、対象者のニーズに即した懇談内容で開催した。誰でもが気軽に参加できる懇談会形式で実施し、地域の方々や団体とつなげる役割も担ってきた。	4（達成した）	子どもをはじめとする児童館利用者や地域全体の意見要望を集約し、児童館事業に反映させていく取り組みとして、「きっかけ・つながり・むすびつき」をテーマに実施してきた「ふらっとネットワーク」は、各児童館で年間数回程度の実施で定着が図れた。
5303	保護者の児童館活動への参加の促進	子育て支援課	保護者が子どもとともに児童館活動に参加し、同じ子育て世代との交流を進め、保護者間で子育て情報の交換や発信を深める機会を提供する。特に父親の行事参加を促進する。 ①保護者が参加しやすい行事の実施 ②親子で参加できる行事の実施 ③児童館ボランティアへの勧誘と地域のボランティアグループなどへ紹介	乳幼児クラブを終えた4歳～6歳の親子を対象に父親の子育て参加を促すため、気軽に楽しく体験できる工作やエアロビクス活動を土曜日に実施した。	3（ある程度達成した）	ライフワークバランスの観点から引き続き父親が参加しやすい活動を企画するとともに活動のPRを工夫し父親の参加を増やしていく。
5304	青少年の乳幼児ふれあい体験	保育課	区立保育園全園で、主に中高生の保育体験ボランティアや区立中学校における職業体験学習の受入れを行い、園児と触れ合いながら、乳幼児の遊びや生活等を体験してもらうことで、ボランティア意識の高揚と地域への愛着心をはぐくむ。	体験学習（中学生）延べ736人 ボランティア（中学生）延べ20人 ボランティア（高校生）延べ77人	4（達成した）	主に中高生の保育体験ボランティアや区立中学校における職業体験学習の受入れについては、各保育園で定着してきている。園児と触れ合ったり、乳幼児の遊びや生活等を体験してもらうことで、ボランティア意識の高揚と地域への愛着心が育まれてきた。また、多職種の仕事の様子を見たり、体験する中で仕事の内容や保育園の特質も理解が深まってきた。
5305	地域の教育力を活かした教育活動	教育指導課	①地域・保護者の知識、経験、技術を学校の教育活動等に活かし、地域とともに学びの場を創造する。 （総合的な学習の時間やサマースクール等での人材の活用、昔遊び・地域の歴史等、中学生の職場体験・進路指導等） ②子どもが、スポーツに親しむための契機となるよう地域の各スポーツ活動を支援する。	昔遊び・地域の歴史等、中学生の職場体験・進路指導等、また、総合的な学習の時間やサマースクール等で地域人材を活用した。	3（ある程度達成した）	昔遊び・地域の歴史等、中学生の職場体験・進路指導等、また、生活科、総合的な学習の時間やサマースクール等で地域人材を活用した。
5305	地域の教育力を活かした教育活動	スポーツ振興課	①地域・保護者の知識、経験、技術を学校の教育活動等に活かし、地域とともに学びの場を創造する。 （総合的な学習の時間やサマースクール等での人材の活用、昔遊び・地域の歴史等、中学生の職場体験・進路指導等） ②子どもが、スポーツに親しむための契機となるよう地域の各スポーツ活動を支援する。	①5地区スポーツ大会 延べ645人 ②碑文谷ドッジボール大会 延べ396人	3（ある程度達成した）	地域住民が開催するスポーツ活動に多くの子ども達が参加している。子どもがスポーツに親しみつつ、地域交流を図る場として地域で開催するスポーツ活動を引き続き支援する。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
5306	青少年団体の育成等青少年健全育成事業の推進	生涯学習課	子ども達が地域の一員としての自覚を持てるよう、青少年団体や住区青少年部等による様々な社会体験や自然体験の活動を支援するとともに、活動の場や機会の充実、情報提供、指導者の養成等を行う。	自然体験バス提供事業については、緊急財政対策により、24年度より休止している。	3（ある程度達成した）	区の財政状況や青少年団体の動向を見て、今後の事業のあり方を検討していく。
5307	地域教育懇談会の活動支援	教職員・教育活動課	家庭・学校・地域が連携し、地域での教育課題の話し合いや情報交換を行い、地域ぐるみで子どもを大きくむ活動の支援を行う。	各中学校区の地域教育懇談会に活動経費等の支援を行った。また、教育委員会や学校主催で開催される「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」や「あいさつ運動」などにより地域と小・中学校の連携を推進した	3（ある程度達成した）	各中学校区の地域教育懇談会の情報共有の強化や学校・地域・家庭との連携について再確認し、子どもの育成にどのように関わっていくか検討する必要がある。
5308	青少年問題協議会	生涯学習課	青少年の健全育成にかかわる総合的な取組の審議や適切な実施のための連絡調整等を行い、関係機関・団体等の連携を図っていく。	青少年の健全育成に関する情報提供、情報交換を行い、各関係団体や機関の青少年育成事業や取り組みを知り、連携するための協議会を3回開催した。	3（ある程度達成した）	毎年度3回、区長の付属機関である協議会を開催し、青少年の健全育成に関する情報提供、情報交換を行い、各関係団体や機関の青少年育成事業や取り組みを知り、連携する場とした。
5309	総合型地域スポーツクラブモデル事業	スポーツ振興課	地域住民が主体となって運営し、子どもから高齢者まで、地域の誰もが年齢や興味・関心に応じて生涯を通じて活動できる多目的型のスポーツクラブの中で、子どものスポーツ活動の支援を図る。	中学生以下の会員 332人	3（ある程度達成した）	中央地区をモデル地区として総合型地域スポーツクラブ「スポルテ目黒」は、現在、中学生以下の会員が332人（39.7%全会員数836人）であり、子どものスポーツ参加の機会や異世代との交流機会の拡充に貢献している。今後も地域の大人たちが協力しあって、多様なスポーツ機会、交流の機会を子どもに提供できるよう、この事業を推進する必要がある。
5310	学校開放運営委員会の活動支援	スポーツ振興課	学校が子どもの居場所や地域の人々とのふれあいの場、活動の場となるよう、住民の主体的な参加による学校開放運営委員会を支援する。	小学校22校、中学校10校	3（ある程度達成した）	学校が子どもの居場所や地域の人々とのふれあいの場、活動の場となるよう、住民の主体的な参加による学校開放運営委員会の支援をした。
5311	地域活動団体への支援	地域振興課	地域活動団体が青少年を対象として行う事業に対して、保険等の加入費を区が負担する。	加入団体143団体 （うち、こども・青少年関係団体13団体	3（ある程度達成した）	地域活動団体損害賠償責任保険への加入要件は、青少年を対象として行う事業だけではないが、一定数の青少年関係団体の加入があり、加入した団体においては負担軽減と、安心な活動を可能にする目的は達成された。
5312	親子ふれあい入浴デー	産業経済・消費生活課	子どもが小さい頃より親子で公衆浴場を利用する機会をもち、公衆浴場に親しむ。	浴場数17、利用数3,126組（男湯1,592、女湯1,534）	3（ある程度達成した）	公衆浴場自体の減少があったものの、利用組数は増加。チラシ作成、HPによる周知により、利用者数は増加した。
5313	保護司会・更生保護女性会・BBS会の活動支援	健康福祉計画課	犯罪や非行に陥った子どもの立ち直りのための支援及び犯罪や非行防止活動を行っている保護司会、更生保護女性会、BBS会に対して必要な支援を行う。	保護司会・更生保護女性会に対し事務局として支援を行った。 会議開催等延べ約50回 BBS会への補助金交付	4（達成した）	犯罪や非行に陥った子どもの立ち直りのための支援及び犯罪や非行防止活動を行っている保護司会、更生保護女性会、BBS会に対し事務局としての支援を行った。
5314	社会を明るくする運動への支援	健康福祉計画課	犯罪や非行の防止と更正の援助に取り組む「社会を明るくする運動目黒区実施委員会」の活動を支援し、この運動の趣旨を広く区民に啓発していく。	各種行事を延べ約32回（11,817人）行った。 また、広報用ポスターを区内に2,000枚掲出した。	4（達成した）	毎年7月の全国強化月間を中心に、「社会を明るくする運動目黒区推進委員会」のさまざまな活動を支援し、この運動の趣旨を広く区民に啓発した。